

R2 鈴鹿サーキット (三重県)

エントリー台数 70台
観客動員数 (土・日合計) 25,500人

4/22 (土) 晴れ 公式予選 レース1 11位 (タイム:2'04"456) レース2 10位 (タイム:2'07"575)

4/22 (土) 晴れ 決勝レース レース1 (16周) 8位

4/23 (日) 晴れ 決勝レース レース2 (14周) 7位

合計獲得ポイント **17P**
ポイントランキング **11位**

代役・渥美心が鈴鹿を快走!

全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦鈴鹿ラウンド。S-PULSE DREAM RACING・ITECにとって今シーズン最初のレースとなった。そしてそこにチーム代表兼ライダーの生形秀之の姿はなかった。なぜなら3月24日、開幕戦もてぎの事前テスト2日目の開始早々に生形はセカンドアンダーブリッジ先の左高速コーナーで転倒し、骨盤骨折等の重傷を負ってしまって開幕戦も欠場を余儀なくされたからだ。しかし第2戦鈴鹿は、8月の8耐のためにライダーにとってもチームにとっても貴重なデータ収集の機会でもある。そこで今年も鈴鹿8耐と一緒に戦う予定となっている渥美心を急遽代役に起用。渥美はル・マン24時間の翌週というハードスケジュールではあったが快諾してくれたこともあり、チームは参戦準備を粛々と進めた。マシンのベースのセットは生形のもの。木曜日から走り始め、うまく順応した渥美がセッションごとにタイムを上げていったため、大きくは変更せず進めていった。

〈公式予選〉鈴鹿8耐に向けたスポット参戦も多いために70台ものエントリー。渥美はセッション終盤にアタックし、2分07秒台までタイムを縮めレース1は11番、レース2は10番グリッドを獲得。

〈決勝レース1〉10番手でオープニングラップを終えた渥美は、2周目にかわされ11番手に降順。その後はレースも折り返しとなる8周目に一人、11周目に一人をかわし、さらに最終ラップ、もうひとつ前に出て8位でゴール。

〈決勝レース2〉好スタートを切ると8番手につけ、序盤は岩田選手と抜きつ抜かれつを繰り返して、6周目には2分06秒861をマーク。その後も2分07秒台で周回し、4位争いの集団にジリジリと迫っていく。完全に追いついたものの勝負するところまでは行けずにいたが、最終ラップにトラブルで止まったライダーがいたため一つポジションを上げ7位でゴール。レギュラーメンバーに食い込む快走を見せ、鈴鹿8耐に向け、手応えのあるレースとなった。

〈渥美心コメント〉

「走り始めから戸惑いもなく去年の鈴鹿8耐の雰囲気を出し出すことができていました。チームの皆さんと話し合いながら、昨年以上のレベルで走る、という目的に向かって、着実にステップを踏んでいくことができました。ル・マンの直後で身体は動くのですが時差ボケは金曜夜まであり、寝られるときに寝られるようにして下さったのは助かりました。鈴鹿8耐に向けていいレースになったと思います。生形選手を始め、チームの皆さんに感謝いたします」

〈藤原克昭監督コメント〉

「今回がこのチームの監督として臨む初めてのレース。生形選手が築き上げてきたチームに渥美心選手と組んでのチャレンジでしたが、久しぶりに才能のある若手ライダーがいるなど。素直でコメントが的確なので、すごくやりやすかったですね。ル・マン24時間をヤマハ+ダンロップで走って、帰国してすぐに時差ボケもある中、去年の鈴鹿8耐以来のスズキ+ブリヂストン、しかもスプリント仕様。現状ではベストに近い結果だったと思います」



PARTNERS

